

浸水防災マップ作成

さいたま市 市民防災意識向上へ

さいたま市は内水による浸水の危険カ所や避難方法等に係わる情報を示した「さいたま市浸水(内水)防災マップ」を作成した。

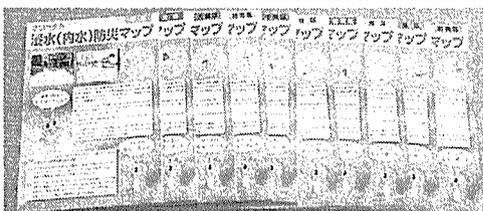
近年、都市化の進展や集中豪雨の増加に伴い、下水道等の雨水排水能力を上回る雨水流出が頻繁に発生している。さらに都市部への

資産集中や地下空間利用の進展など、都市機能の高度化がすすみ、浸水に対する被害発生の可能性が増大している。

こうした背景を踏まえ、同市は従来からポンプ排水機能の増強や雨水管きよや雨水貯留施設の整備などによるハード対策をすすめて

いるが、施設整備には長期間を要しているのが現状だ。そこで、市民の自助・共助を促進することを目的としたソフト対策の充実をはかるため、内水による浸水の危険カ所や避難方法等の情報を示したマップを作成した。

マップは同市の各区ごとに作成されたもの。マップ面は浸水履歴と地形情報を考慮した浸水想定区域(浸水の危険カ所)図となっている。浸水想定区域は、近年10年間の間に、市民から通報があった浸水情報をもとに、地形情報を考慮して作成された。想定される浸水深は、床上浸水を想定した水深50センチ以上と、50センチ未満の2種類に区分し、



10区分の浸水マップを作成

先、気象情報の入手方法や伝達経路、避難時にとるべき行動の目安と注意点、各家庭での備えや自主防災活動など自助・共助への呼びかけ、内水による浸水から外水氾濫にいたるまでの浸水発生メカニズムなどを示している。併せて浸透ますや貯留タンクなど各戸での取り組みへのお願いも記している。

同市下水道部下水道計画課では「自助・共助・公助のトライアングルは重要だが、マップを通して、自助と共助を市民に理解してもらい、防災意識を向上してもらおうことが狙い」としている。マップは今後、市のホームページにも公表される。